

昭										昭	年	月	日	略	略	略		
20										18								
9	11	10	9	8	9	8	8	6	12	11								
18	26	22	9	21	1	22	15	1	26	3								
<p>奉天において武装解除。 奉天北<sup>陵</sup>機收容所に集結。 司令部は最後まで奉天にあつて、付近の部隊を集結、作業大隊の編成に任じた。 将官は、奉天飛行場よりソ連機で「チタ」地区に入ソ。 佐官は、新京才一将校大隊に編入（長、萩原大佐）。</p>										<p>軍令陸甲才九七号により臨時編成下令。 龍江省齊々哈爾において編成完結。 才二方面軍司令部の南方転用に伴ない才三方面軍司令部新設。 才四四軍司令部鄭家屯<sup>屯</sup>に移駐にともない奉天に移動。 奉天において停戦。 奉天において武装解除。 奉天北<sup>陵</sup>機收容所に集結。 司令部は最後まで奉天にあつて、付近の部隊を集結、作業大隊の編成に任じた。 将官は、奉天飛行場よりソ連機で「チタ」地区に入ソ。 佐官は、新京才一将校大隊に編入（長、萩原大佐）。</p>	<p>通称号 濶才一三部隊 強才九三三八部隊</p>	第三方面軍司令部（除経理部）略歴	略	略	略	略	略	略
<p>新京出發 黒河經由入「ソ」 下士官兵は奉天作業才一大隊（長大塚大尉）および作業才五六大隊（長大久保大尉）に編入。</p>																		

2392

	至自至自
	11 10 10 9
	22 3 8 18
	<p>奉天出發。          黒河經由入「ソ」</p> <p>軍司令官          初代 大将 岡部直三郎（昭和一九八二五まで）          二代 大将 後宮 淳</p>

2393

			昭 20	昭 18	年 月 日	略 歴	摘 要				
8	8	8	6	12				11			
15	13	9	1	26				3			
<p>開戦とともに梅河口に移動。 梅河口において停戦。</p>			<p>前任務を続行</p> <p>新 京 出張所長 西 谷 久太郎</p> <p>奉 天 “ “ 脇 谷 醇</p> <p>出張所 錦 西 “ 堀 藤 雄</p> <p>大 連 “ “ 齊 藤 正 一</p> <p>鄭家屯 “ “ 崎 谷 常 一</p>			<p>軍令陸甲才九七号により編成下令。 龍江省齊々哈爾において編成完結。 才三方面軍司令部の奉天移駐にともない才四四軍経理部の次の出張所を引継ぎ</p>			<p>通称号 満六九三部隊 強才一三一三九部隊</p>		
<p>日ノ開戦とともに各出張所は次のとおり行動し、奉天に集結（大連出張所をのぞく）才三方面軍司令部と行動を共にす。 新京出張所</p>			<p>開戦とともに梅河口に移動。</p>			<p>第三方面軍司令部経理部略歴</p>					

2394

至自至自																																	
8	8	10	10	9	8	11	10	9	8	10	9	9	8	8																			
30	20	29	32	4	17	17	29	8	25	30	3	18	1	22	18																		
奉天北陵地区収容所に収容。		奉天において武装解除。		鄭家屯出張所		黒河経由入「ソ」		奉天に集結、同地において武装解除。		奉天北陵において才一、才五四作業大隊編入。		黒河経由入「ソ」		奉天出張所		奉天において武装解除。		奉天北陵において奉天才五八作業大隊に編入。		奉天出発。		黒河経由入「ソ」		奉天出張所		奉天において武装解除。		奉天北陵へ移動。		奉天着、奉天大山会館において武装解除。		梅河口出発。	

2395

	至	自	至	自
	8	11	1010	9
	21	29	3 8	17
奉天才一、才五八作業大隊編入 黒河經由入「ソ」。 大連出張所 部隊解散 入「ソ」せず。 經理部長 少将 滝川 保之助				

2396

昭 19		昭 20		自		至	
年	月	日	日	日	日	日	日
昭	19	7	8	10	11	8	10
昭	20	28	9	18	27	20	27
<p>第一〇八師団司令部略歴</p> <p>通称号 満第二二五部隊 祐第一四〇五五部隊</p> <p>概要                      軍令陸甲第八二号により臨時編成下令                      熱河省承德において第九独立守備隊司令部を基幹として編成完結                      日「ソ」開戦まで承德にありて熱河省肅正作戦                      日「ソ」開戦にともない奉天省遼陽に転進の命を受く                      承德発同日錦県に到着                      錦県において武装解除                      錦県第五作業大隊（大尉 前田正美）に編入                      錦県出発                      黒河經由入「ソ」</p> <p>○</p> <p>一部遼陽着                      遼陽において武装解除                      奉天省海城に移動                      将校は海城将校大隊に編入</p>							
摘要							

2337

	11	11	
	21	10	
	<p>海城を列車で出発 満州里經由入「ソ」 (下士官、兵は分散行動)</p> <p>師団長 中将 磐井 虎四郎</p>		

昭							昭	
20							19	
8 8 8 8 8 8							8 7	
19 18 14 13 11 1							15 28	
<p>満軍の反乱より部隊は四散</p> <p>五百井中尉等は目的を達せず承德に帰還したが大隊主力に合流し得ず、同夜</p> <p>軍使として中尉五百井利広以下約七〇名を自動貨車により隆化に派遣</p> <p>承德着</p> <p>第六、第七中隊及機関銃隊古北口出発</p> <p>連隊本部、第二大隊本部承德に帰省</p> <p>より北支古北口を中心に討伐実施中。日「ソ」開戦</p> <p>連隊本部、第二大隊の行動</p> <p>第一大隊 …… 熱河省興隆</p> <p>第二大隊 …… 熱河省青隆</p> <p>連隊本部 …… 承德</p> <p>軍令陸甲第八二号により編成下令</p> <p>熱河省承德において第九独立守備歩兵第一三大隊を基幹として編成完結</p> <p>爾後次の如く各部隊を配置し肅正討伐を実施</p>							<p>通称号 満第八八一部隊</p> <p>祐第二〇五六〇部隊</p>	
							<p>概要</p>	
							<p>摘要</p>	

## 歩兵第二四〇連隊 略歴

通称号 満第八八一部隊  
祐第二〇五六〇部隊

2399



昭 20				昭 20				至自				至自				
8	8	8	8	10	9	9	12	8	9	9	9	9	8	8	8	
23	17	15	9	中旬	15	上旬	17	9	20	15	18	12	29	28	19	
平泉出発	大隊長は第一〇、第二一中隊の主力を指揮し平泉に向かい出発	停戦	青龍を本拠として満支国境地区の討伐中 日「ソ」開戦	第三大隊の行動	黒河經由入「ソ」	承德出発	興隆残留隊及初年兵は承德に移動武装解除後同地の第四作業大隊に編入	佐世保上陸帰還	鎮、通過北支軍司令官の指揮下に入り爾後北支軍と同一行動	第一大隊の行動	黒河經由入「ソ」	承德出発	承德第一、第三作業大隊に編入	結、部隊主力に合流	第五中隊は熱河省劉家杖子付近において「ソ」蒙軍等の攻撃を受け承德に集	連隊本部及大隊主力の武装解除

						昭
						9
						18
						11 10 9 8 8 9
						30 8 30 27 22 18
						錦県着、同日武装解除 第九中隊及青龍残留隊は青龍出発、錦州に向かい出発 途中催崖子において大隊長の指揮する大隊主力と合流し爾後同行動 錦県第八作業大隊に編入後改編により同第六作業大隊に編入替 錦県出発 黒河經由入「ソ」
						連隊長 大佐 中村
						資料

二の外

昭 20					自昭 20 19			昭 19	
8 8 8 8					7 6 8			8 7	
28 26 23 15								15 28	
<b>歩兵第二四一連隊 略歴</b>									
通称号 満第一五四部隊 祐第二〇五七〇部隊									
概 要									
<p>軍令陸甲第八二号により編成下令                      錦州省阜新において第九独立守備歩兵第一七大隊を基幹として内地補充員および在満召集者をもつて編成完結                      主力を阜新に一部を林西、通遼に配備し警備に任ず。                      陣地構築のため一部を林西、阜新に残置し主力は赤峰熱水、葉柏樹に移動し引続き一部を各陣地構築に残置し主力をもつて南部熱河地区の八路軍討伐を実施。討伐実施に方つては連隊本部及第二大隊（欠第五中隊）は寛城、第一大隊は薰家口、第三大隊は北支喜峰口を中心に行動                      日「ソ」開戦により連隊本部、第二大隊（第五中隊欠）第三大隊は阜新を経て遼陽に移動                      停戦                      遼陽において武装解除                      遼陽発                      海城着</p>									
摘要									

		自至					自至自					自至自									
		11	10	9	9	9	9	8	10	10	9	9	8	8	10	10	10	10	9		
		27	30	5	18	26	18	中旬	14	16	5	16	15	18	15	25	19	11	5	4	3
隊	長	<p>海城第五、第九作業大隊に編入</p> <p>海城出発</p> <p>満州里經由入「ソ」</p> <p>第一大隊は錦州省義県に集結、同地で警備中停戦</p> <p>連隊主力に追及するため列車により移動途中奉天に下車、同地において武装解除</p> <p>奉天第三三作業大隊に編入（その後改編され第三二、第三四作業大隊に編入）</p> <p>奉天出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p>第五中隊は興安西省林西において警備任務を統行中日「ソ」開戦となりこの間「ソ」軍および土匪と交戦、錦県に向い後退</p> <p>主力は錦県において武装解除</p> <p>一部は錦州省北鎮において武装解除、後錦県各作業大隊に編入、入「ソ」</p> <p>錦県第四、第五作業大隊に編入</p> <p>錦県出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p>																			
	大佐																				
	斉藤																				
	義夫																				

昭 20		昭 19					昭 19		年月日	概	要	摘 要				
8	12	12	11	11	11	8	8	7								
9	28	23	21	12	10	30	20	15	12	通称号 満第八〇四部隊 祐第二〇五八〇部隊	歩兵第二四二連隊 略歴					
日「ソ」開戦 撫寧県出発、満支国境山海関通過同日錦泉着		討伐参加のため錦泉出発、満支国境山海関通過、北支撫寧県着					臨榆県出発、満支国境山海関通過、同日錦泉着		満支国境山海関通過北支河北省臨榆県着		<p>○</p> <p>部隊主力（本部第二大隊「欠第五、第六中隊」通信中隊、歩兵砲中隊）の行動</p> <p>錦西出発、同日錦泉着</p> <p>肅正討伐のため錦泉出発</p>		<p>軍令陸甲第八二号により編成下令</p> <p>錦州省錦西において独立守備歩兵第一八大隊を基幹として編成完結。爾後錦西付近の警備</p> <p>第三大隊を壺芦島に配置</p>		<p>8</p> <p>8</p>	

三の外

2404

昭 20								昭 19									
8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	11	11	9	8	8	8	8
26	17	16	15	14	13	9	7	6	5	21	9	7	25	20	17	15	
部隊集結のため遼陽出發								<p>停 戦</p> <p>奉天省遼陽に移動</p> <p>遼陽において武装解除</p> <p>遼陽発</p> <p>海城着、海城第一二作業大隊編入</p> <p>海城出發</p> <p>満州里經由入「ソ」</p> <p>第一大隊の行動</p> <p>西南防衛地区肅正参加のため錦西出發</p> <p>満支国境山海関通過</p> <p>北支河北省臨榆県石門塞を経て熱河省青龍県牛心山着、同地付近の警備</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>牛心山出發</p> <p>満支国境山海関通過</p> <p>錦泉着、停戦</p> <p>錦西出發</p> <p>遼陽着</p>									

												昭	昭					
												20	22					
9	8	8	8	8	8	8	8	8	6	5	5	3	9	9	8			
23	28	26	20	17	16	15	12	11	17	26	26	25	28	26	28			
大連に向つて海城出發	海城着	「ソ」軍命令により部隊集結のため海城に向つて出發	遼陽において武装解除	遼陽着	錦県出發	停戦	錦県着	壺芦島出發	石門 <del>縣</del> 出發、滿支国境山海関通過、同日壺芦島着、同地において警備	北支河北省臨榆県石門 <del>縣</del> に到着、同地区付近の警備	壺芦島出發、同日滿支国境山海関通過	第三大隊の行動			大連港出帆、佐世保上陸	大連台山屯到着、以後ソ軍の使役に服す	海城出發	海城着

昭		昭		昭		昭	
20		19		20		22	
至	自	至	自	至	自	至	自
5	12 12	12	11	11	10	9	9
				8	8	7	8
10	28 22	22	24	27	30	5	7
				1	20	13	29
				27			
討伐のため綏中出發	過、同日綏中着	北支芦龍県下塞庄周辺地区の討伐、同日秦皇島出發、同日滿支国境山海関通過、同日綏中着	配備変更のため錦西出發、同日錦州省綏中果綏中着	討伐参加のため綏中出發、同日滿支国境山海関通過、同日北支北載河着	第六中隊の行動	黒河經由入「ソ」	錦泉出發
							錦泉第五作業大隊に編入
							錦泉飛行場集結
							錦泉において武装解除
							六道河出發、錦泉に集結
							熱河省六道河警備
							錦泉より通遼へ移駐
							第五中隊の行動
							大連出港。博多上陸
							大連着。以後「ソ」軍の使役に服務



昭 20					昭 22					至自至自					
9	9	8	8	6	8	10	9	8	8	8	7	7	5	5	5
7	1	20	15	15	28	31	29	28	17	10	15	1	16	11	11
<p>第九中队 熱河省青龍県八道河にて討伐警備中、錦県に移動集結</p>					<p>大連港出帆、博多上陸 旅順収容所に収容 大連周水子収容所に収容 奉天省海城において武装解除</p>					<p>満支国境山海関通過、同日北支北載河着 北支臨榆県平面庄周辺地区の討伐、秦皇島出発、満支国境山海関通過綏中着。 綏中県西南防衛地区肅正討伐 綏中出発、同日錦県着 錦県出発、奉天省遼陽に到着</p>					
<p>錦県飛行場に収容 錦県第五作業大隊に編入</p>					<p>錦県において武装解除 停戦</p>										

四の外

436の6

至自  
11 10 10

27 30 5

錦  
泉  
出  
発  
黒  
河  
経  
由  
入  
「  
ソ  
」

隊

長

大  
佐

渡  
辺

進

四  
の  
内

2409

昭和20年											年月日	概	要	摘要						
11	11	11	8	8	8	8	8	8	8	7					7					
20	9	11 上旬	30	25	20	16	15	12	11	9	10	5								
満州里經由入「ソ」																				
海城出発																				
海城作業第一〇大隊に編入																				
海城に集結																				
遼陽出発																				
主力は遼陽において武装解除																				
錦泉より奉天省遼陽に移動																				
停戦																				
錦泉へ集結																				
作命により錦泉へ集結のため凌源出発																				
日「ソ」開戦																				
第一〇八師団各部隊より選出した人員を基幹として編成																				
熱河省凌源において編成完結																				
軍令陸甲第一〇六号により編成下令																				

## 第一〇八師団挺進大隊 略歴

通称号 祐第二〇五五〇部隊

	至自 至自 11 10 10 9 8
	25 5 4 9 7
<p style="text-align: center;">大 隊 長 大 尉 笠 井 源 次 郎</p>	<p style="text-align: center;">黒河経由入「ソ」 錦県出発 一部錦県作業第三、第四作業大隊に編入</p>

昭和											年月日	概	要	摘要		
20		19			18										17	
8	3	3	0	9		12	5	5	5	5	5	4	<p>騎兵第一七一連隊 略歴</p> <p>通称号 満第四三九二部隊 祐第二〇五九〇部隊</p>			
9	21	17	8	5		20	27	23	21	20	13	16				
<p>日「ソ」開戦</p> <p>海城到着、同地警備</p> <p>佳木斯より奉天省海城へ移動</p> <p>佳木斯到着、同地付近の警備</p> <p>全部隊三江省佳木斯へ移動</p> <p>同日より同地区の警備</p> <p>同日間島省琿春県琿春着</p> <p>移駐のため慶源出發、同日鮮満国境通過</p> <p>朝鮮咸鏡北道慶源着</p> <p>釜山上陸</p> <p>宇品港出帆</p> <p>屯営出發</p> <p>東京（近衛騎兵連隊）において編成完結</p> <p>軍令陸甲第三四号により編成下令</p>																

五の外

五の内

	10	10	9	8	8
	25	11	3	20	15
隊	満州里經由入「ソ」	海城出發	海城第九作業大隊に編入（長大尉 菊義雄）	海城において武装解除	停戦
長					
少佐					
井原清人					

		昭		昭		年	
		20		19		月	
		7 7		6 11		日	
		30 18		23			
		8 8		8 7			
		13 9		15 12			
葉柏寿出発		葉柏寿付近の警備		軍令陸甲第八二号により編成下令		野砲兵第一〇八連隊 略歴	
連 隊 主 力		野砲兵第一〇八連隊となる（三ヶ大隊編成）		奉天省海城において公主嶺砲兵学校臨時砲兵中隊、第三軍山砲教育隊を基幹として第一〇八師団砲兵隊を編成		通称号 満第四五一部隊 祐第二〇一〇〇部隊	
		日「ソ」開戦とともに一ヶ大隊を第一三六師団に配属すべき命をうけ第二大隊（第五、第六中隊、段列欠）および第一中隊を奉天に派遣		奉天省他山に古田見習士官以下約二〇名を派遣		概要	
		熱河省葉柏寿に移動、同時改編に着手		陣地構築のため連隊本部附中尉田中一穂指揮のもとに約一五〇名熱河省熱水に派遣		要	
		軍令陸甲第一〇六号により改編完了				摘要	

2414

														至自			
8	8	8	8	11	10	9	8	8	8	8	8	8	8	8			
20	15	14	13	24	23	1	30	28	25	19	17	16	15	14			
古城子において武装解除	奉天にて停戦、奉天北方古城子において第一三六師団長の指揮下に入る	錦県―海城を南滿鐵道により奉天省渾河に到着	葉柏寿出発	奉天派遣隊	黒河經由入「ソ」	海城出発	海城作業第六大隊（少佐 多田武男）に編入	に移動の際復帰した	日「ソ」開戦後部隊に復帰不可能となり海城騎兵隊に合流後部隊主力が海城	他山派遣隊	遼陽出発、海城に集結	遼陽において武装解除	用列車により遼陽に転進し部隊主力に復帰した。	熱水派遣隊は日「ソ」開戦後も引き続き陣地構築作業に従事していたが最終軍	転進のため錦県出発、同日奉天省遼陽着	停戦	錦県に移動



			10	9	9	9
			16	16	15	13
			奉天市収容所に移動 奉天第三三作業大隊（少佐河野桂十郎）に編入後、改偏され第三四作業大隊 （少佐 佐々木行矩）に編入 奉天出発 黒河經由入「ソ」			
		隊				
		長				
		少佐				
		徳田芳吉				

2416

		昭 20							昭 19			年 月 日	第一〇八師団工兵隊 略歴
至	自	10	9	9	8	8	8	8	7	8	7		
2730	1110	5	7	初	25	16	14	9	中旬	15	12		
<p>軍令陸甲第八二号により編成下令 奉天省營口において在滿各工兵隊からの転入者をもつて編成完結 營口に一ヶ中隊を残置（初年兵教育のため）し、主力は熱河省平荘に移駐、 作業小隊は營口より熱河省熱水に移動、同地において陣地構築 日「ソ」開戦</p> <p>主 力</p> <p>師団命令により錦泉集結の目的をもつて平荘より列車にて出発 錦泉着 錦泉において武装解除 錦泉西飛行場に集結 錦泉第五作業大隊（大尉 前田正美）に編入 錦泉出発 黒河経由入「ソ」</p> <p>營口残留隊</p>													通称号 満第四七四部隊 祐第二〇一一〇部隊
概要													要
													摘要

			昭 20				昭 22				昭 21				昭 20
8	8	8	8	3	3	3	1	1	10	10	9	8	8	8	8
16	14	13	13	28	23	22	20	19	20	1	中旬	26	21	20	14
遼陽着	錦県着、同日遼陽に向かい出發	熱水出發	熱水において陣地構築作業中師団命令により野砲兵第一〇八連隊長の指揮下に入る	熱水作業小隊	帰還のため大連港出帆、帰還	大連收容所着	金州出發	金州收容所着、同日より建築作業	大連出發	「ソ」軍船の積下し作業に従事	大連收容所着	海城到着	遼陽出發	遼陽において武装解除	營口出發、奉天着。同日奉天発遼陽着

		昭												
		21												
		3	3	3	1	1	10	10	9	9	9	8	8	8
		28	28	22	21	19	9	2	22	20	1	26	23	20
隊	長	<p>遼陽において武装解除 移動のため遼陽出發 海城に到着、同日海城に收容 海城第七作業大隊（大尉 鳴美敏四郎）に編入 列車により旅順に向かい出發 龍頭駅（旅順駅手前）にて下車同地付近の道路作業 同地出發、大連に向かう 大連到着、同地において埠頭の清掃作業、「ソ」軍船入港のため貨物の積下 し作業</p> <p>「ソ」軍命により金州に移動の為同地出發 金州西海岸收容所（旧陸軍病院）に收容、雑役に従事 「ソ」軍命により大連に向う 大連着、雑役に従事 大連港出帆、博多上陸</p>												
大尉	少佐	<p>佐々木 行 矩（20 7 まで） 藤五郎</p>												

													昭		年 月 日	第一〇八師団通信隊 略歴			
													20	19					
11	10	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7					
24	23	1	28	23	20	17	16	15	13	12	9	15	12						
隊長 大尉 青沼辰雄 菅原陸男 (20・7まで)													軍令陸甲第八二号により編成下令 熱河省承德において在滿他部隊からの転入者をもつて編成完結 日「ソ」開戦 師団命令により錦泉防衛のため承德発 錦泉到着 停戦 錦泉出発 奉天省遼陽に移動 遼陽において武装解除 遼陽出発 海城に到着 海城第六作業大隊に編入 海城出発 黒河經由入「ソ」		通称号 第五五五部隊 第二〇一二〇部隊		概要	要	摘要

												年月日	
												昭 19	昭 20
												7	7
												12	12
												15	15
												16	16
												12	12
												18	18
												15	15
												16	16
												17	17
												8	8
												8	8
												8	8
												9	9
												10	10
												第一〇八師団輜重隊 略歴	
												通称号 満第五七一部隊 祐第二〇一三〇部隊	
												概	要
												摘要	
												軍令陸甲第八二号により編成下令	
												奉天省遼陽において輜重兵第五七連隊を基幹として編成完結	
												部隊主力(本部、第一、第二中隊の主力)は移駐のため遼陽出発	
												朝陽県境通過、同日承德着、同日より付近の警備	
												錦県方面警備のため承德出発	
												朝陽県境通過、同日錦県着、同地付近の警備	
												停戦	
												錦県出発	
												遼陽着	
												遼陽において武装解除	
												海城に集結	
												海城第八作業大隊に編入	
												旅大地区に移動爾後「ソ」軍の使役に従事し大連港から帰還	

昭																													
20						20																							
9	8	8	8	8	8	7	7	9	9	9	8	8	11	10	9														
15	25	18	16	22	13	8	6	20	15	9 上旬	19	16	中旬	7	1														
奉天、第三三作業大隊に編入		奉天到着		一部残務整理のため残留者は列車により熱水出発		遼陽到着、同日武装解除		部隊命令により列車により熱水出発		朝陽境界通過、同日熱水着、同地において陣地構築		第二中隊は熱水移駐のため遼陽出発		満州里經由入「ソ」		同地出発		承德第三作業大隊に編入		承德貨物廠において武装解除		一部承德移動時承德貨物廠警備のため若干名を残留		人「ソ」		海城出発		將校は將校作業大隊に編入	

		至自		至自		昭		昭	
		11 10		10 10		8 8		5 5	
		1 23		5 5		10 20		16 4	
		10 10		9 9		8 8		5 5	
		10 5		16 16		10 5		16 9	
隊	長	黒河經由入「ソ」		同地出発		錦県 第五、第六各作業大隊に編入		錦県において武装解除 錦県飛行場に集結	
	大尉							後方部隊輸送の目的を以て同地出発	
加藤	繁							第三中隊は遼陽より平泉に移駐し滿支国境附近の討伐隊の輸送業務に従事	
春								奉天出発 黒河經由入「ソ」	



昭 昭											
22 21											
3 1 9 8 8 8 8 8 8 8 5 7											
22 21 21 29 27 25 20 16 15 10 9 12 12											
年 月 日											
概 要											
摘 要											
第一〇八師団兵器勤務隊 略歴 通称号 満第一二九五一部隊 祐第二〇一五〇部隊											
軍令陸甲第八二号により編成下令 熱河省承德において第一〇八師団砲兵隊および現地召集者をもつて編成完結 日「ソ」開戦 錦県に移動 停戦 奉天省遼陽到着 遼陽において武装解除 海城集結のため遼陽出発 海城到着（その間現地召集者解除し基幹人員のみ海城着） 海城出発 大連収容所に到着 金州収容所に到着 帰還のため大連港に向う											

十の外

44302

	4
	1
	大連港出帆
隊	
長	
大尉	
上	
岡	
捨	
蔵	

2425

至自		至自		昭		昭		昭		昭		年月日	第一〇八師団衛生隊 略歴	
11 11		11 11		8 8		8 8		7 7		8 8				概
21 20		9 7		27 20		16 15		12 10		15 12				
満洲里經由入「ソ」		海城出發		主力は海城第一〇、第一二作業大隊に編入		海城に集結		遼陽（旧輜重隊兵舎）において武装解除		部隊命令により奉天省遼陽に集結		停戦		
								錦泉に到着		熱河省凌源に移駐		奉天省鉄嶺において編成完結		
												軍令陸甲第八二号により編成下令		
												通称号 満第六六九部隊 祐第二〇一四〇部隊		
												摘要		

444の2				
至自	至自	至自	至自	昭
				20
12 11	11 10	10 10	9 9	8
3 27	4 30	13 5	30 7	22
<p>一部 的 行 動</p> <p>錦 県 において 武 装 解 除 さ れ 錦 県 飛 行 場 に 収 容 さ る</p> <p>錦 県 第 二、第 五、第 六、第 八 作 業 大 隊 に 編 入</p> <p>錦 県 出 発</p> <p>第 二 作 業 大 隊 満 州 里 経 由 入 「ソ」</p> <p>第 五、第 六、第 八 作 業 大 隊 は 黒 河 経 由 入 「ソ」</p> <p>隊 長 中 佐 森 川 梅 太 郎</p>				

2427

昭 22										昭 20		昭 19	年 月 日	第一〇八師団病馬廠 略歴									
3	3	9	8	8	8	8	8	8	8	5	12	7											
28	20	中旬	28	25	22	16	15	9		23	31	12	概	通称号 満第一二九五四部隊 祐第二〇一六〇部隊									
<p>廠長 獣医大尉 居山猪一</p> <p>帰還のため大連港出帆、博多上陸</p> <p>金州収容所より大連収容所着</p> <p>旅大地区に移送、関東州金州、旅順において雑役作業に従事</p> <p>主力は海城第八作業大隊に編入</p> <p>「ソ」軍命により海城に集結</p> <p>奉天省遼陽において武装解除</p> <p>師団命令により遼陽に集結のため錦泉発、同日遼陽着</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>同日編成と同時に錦泉に移駐</p>										軍令陸甲第八二号により編成下令		第一〇八師団臨時病馬収療所編成完結			第一〇八師団臨時病馬収療所を復帰し第一〇八師団病馬廠編成		同日編成と同時に錦泉に移駐						要